

【弓道少年男子遠的決勝・熊本—富山】狙いを定める熊本の（左から）茅野、前田、春成＝出水市総合運動公園特設会場



弓道

弓道少年男子の遠的で熊本が19年ぶり4度目の頂点に輝いた。インターハイ6位の秀岳館高の3人が大ピンチで一致団結。普段は勝っても負けても自分に厳しい茅野麗司主将（3年）は「うれしい。自分以外の2人もほめてください」と表情を緩めた。

60センチ先の的（直径100センチ）を狙う遠的。熊本は予選を4位で通過し、12射（1人4射）で競う決勝トーナメントに進み、地元鹿児島など強豪を次々と撃破した。

富山との決勝。熊本は2射目で大ピンチを迎えた。1番手でエースの茅野が珍しく的外し、得点板に「0」が表示された。嫌な

秀岳館高3人 ピンチで結束

空気が漂ったが、2番手の前田光貴（3年）が「しっかりカパーしよう」と冷静に7点。続く1年の春成知寛が「集中していた」と満点の10点を射抜いて、カパーに成功した。これで茅野もリズムを取り戻した。

熊本県境に近い出水市の会場には秀岳館高のチームメイトや保護者も駆けつけ、決勝は鹿児島選手たちも熊本を応援。的中するたびに「よーし！」と盛り上げた。その雰囲気も味方に最後は81-79で競り勝った。

15日の近的に向け、茅野は「遠的と近的を両方勝てたら本当の1位。油断することなく臨む」。弓道を追求し続ける「侍」が2冠獲得に照準を定めた。

（宮崎達也）

少年男子遠的 19年ぶりV